

伝統文化「新開能」とデジタルの融合



10月21日、まいピア高田で福岡県指定無形民俗文化財の寶満神社奉納能楽「新開能」が行われました。北新開・南新開地区の皆さんによって継承されていることが特徴で、今年は4年ぶりに観客を入れて上演。お謡三番と講話、能3番、狂言2番が奉納されました。



10月16日から27日、インターネット上の仮想空間「メタバース」で新開能の紹介や魅力を発信しました。新開能狂言保存会の協力のもと、衣装や能面などが展示され、奉納当日はライブ映像も配信。来年1月は幸若舞を配信する予定です。

日常を収めた、心温まる写真が応募されました



10月5日、男女共同参画推進フォトコンテストの表彰式が行われました。このコンテストでは、性別に関係なく支え合い、いきいきと活躍している写真を募集。親子で家事をしている様子や子どもたちの笑顔など、心温まる作品が応募され、9作品が入賞しました。

～最優秀賞～



「パパともぐもぐタイム。おいしいね!」 鹿子嶋 彩香さん

入賞作品は、市ホームページで公開しています。



安全安心なまちづくりに貢献



10月6日、芳野征^{まさみ}さんが福岡県防犯協会連合会防犯功労者表彰受賞を報告するため市役所を訪れました。芳野さんは、平成24年から5年間、市の防犯協会役員を務めた後、現在は柳川・みやま地区防犯協会理事として積極的に地域の防犯活動を行っています。

これからもお元気で



9月29日、今年度100歳を迎えた立野アヤ子さん(山川町)にお祝い状と記念品が贈られました。今年度市内で100歳を迎えた人は26人です。立野さんは80歳まで山でみかんの仕事をしており、「元気の秘訣は運動です」とにこやかに話されました。



提供:チームブリヂストンサイクリング

福岡ステージで優勝を果たした児島選手(白のユニフォーム)

マイナビ ツール・ド・九州2023

地元の応援を背に、つかんだ **優勝**

10月6日から9日にかけて「マイナビ ツール・ド・九州2023」が開催されました。国際自転車競技連合(UCI)公認のレースで、6人の選手で構成された国内外の18チームが参加。みやま市出身の児島直樹選手(チームブリヂストンサイクリング)は、6日の小倉城クリテリウムと、みやま市もコースに含まれる7日の福岡ステージで優勝を果たしました。



▲児島選手を取材した10月号

▶競技の魅力などを話し、大会での応援を呼びかけました



大会前に母校を訪問
10月3日に児島選手の母校の水上小学校で行われた、チームブリヂストンサイクリングの講演会。競技の魅力や見どころなどが紹介され、児島選手も思い入れがあるという伝統の「水上コール」で、選手たちにエールを届けました。児島選手は「レース後半は足が動かなくなってくるけど、応援があると力が湧いてきます。地元のみやま市を走る福岡ステージで優勝したいです」と抱負を語りました。

▶大会終了後に母校を訪れ、学校長に結果を報告しました



地元で証明した強さ
4つのステージのうち、2つのステージで優勝という成績を残した児島選手。大会終了後も水上小学校を訪れ、結果を報告しました。福岡ステージは児島選手単独で先頭集団に入り、アップダウンが繰り返される厳しいレースでしたが、ゴール手前の直線で競り勝ち、有言実行を果たしました。「坂道もあって終盤はきつかったです。地元の応援が届いて不思議と体が軽くなりました」と笑顔で振り返りました。



みやま市の公式サイトからアクセスできます

ワンヘルス
特設サイトはこちら



**ワンヘルス
特設サイトを開設**

みやま市の公式ホームページに特設サイトを開設しました。

ワンヘルスに関する基礎知識から市の取り組み、最新のイベントや関連情報などを掲載しています。

全国に先駆けて取り組んでいるワンヘルス教育、ゼロカーボンシティ、出前講座、過去の広報に掲載したシリーズ記事も見ることができます。今後も内容を充実させていきます。

開館1周年を迎えたMIYAMAXで記念イベント



9月30日、開館1周年を迎えたみやま市総合市民センターMIYAMAXの記念イベントが行われました。漫才師で作家の島田洋七さんの講演会「人生、笑ってなんぼ!」では、がばいばあちゃんとのエピソードトークなどで、会場を沸かせました。駐車場には20店舗以上の屋台やキッチンカーが出店。館内ではeスポーツ体験会やロビーコンサート、パンケーキ教室、山門高校茶華道部のお茶会などが行われ、幅広い世代が楽しめるイベントとなりました。



より身近な相談相手になるために



9月21日、山川市民センターで民生委員児童委員協議会の全員研修会が行われました。コミュニケーション・ラウンジYANOの矢野隆子さんを講師に招いて「傾聴力を高めよう」をテーマに講演が行われ、参加者は実体験を交えた話に熱心に耳を傾けました。

目指せ、自己記録更新



9月28日、山門高校グラウンドでみやま市小学校陸上記録会が行われました。市内7つの小学校の6年生が出場し、100m走や走り高跳び、80mハードル走などの競技に挑戦し、自己記録更新を目指しました。会場には多くの保護者も訪れ、大きな声援を送りました。

豪雨被災地へ職員を派遣



7月の豪雨で被災した朝倉市を支援するため、市は10月1日から職員1人を派遣しました。9月29日には激励式が行われ、派遣される京都響さんは「朝倉市の復旧に貢献し、みやま市でも災害が起きているので今後のために学んでいきます」と決意を語りました。

市民の健康増進に向けて連携



9月29日、みやま市と明治安田生命保険相互会社との包括連携協定締結式が行われました。この協定は、市と同社が連携し、市民の健康増進などを図ることを目的としています。併せて、「私の地元応援募金」として、みやま市に寄附金が贈呈されました。

#みやまワンヘルス

ワンヘルス宣言をされている事業者をご紹介します。一緒にワンヘルスの輪を広げていきましょう!



IDF株式会社
(瀬高町下庄)

ワンヘルス宣言事業者登録のきっかけは「ワンヘルスセンターはみやま市にとってチャンス。ぜひ生かしてほしい」と、語られる言葉に可能性を感じました。

ワンヘルスの取り組みを教えてください

食肉を主に扱っていますが、5年程前から市内の畜産農家さんと契約し、みやま産の牛と豚の提供を始めました。地元で育った命を、無駄なく、おいしく、安心して地元でいただく地産地消を推進しています。

今後、どのように推進していきますか

命を無駄にしないこと、食の地産地消、ブランド化です。地域で育ったお肉や野菜をおいしく提供できるイートインを店に設けます。ジビエについての研究もしていきます。



熊川自動車ボデー
(瀬高町長田)

ワンヘルス宣言事業者登録のきっかけは

先に登録していた事業所の友人から、「一緒にワンヘルスを盛り上げていきましょう」と誘いがあり、みやま市のため、将来のために協力したいと思い登録しました。

ワンヘルスの取り組みを教えてください

塗装では低VOC(揮発性有機化合物)の補修塗料を使用し、修理部品のリユースを勧めています。不要バンパーはメーカーのリサイクル回収に出しています。ごみの分別は家庭ごみも含めてしっかり心がけていきます。

今後、どのように推進していきますか

愛車を修理しながら長く大事に乗っていただくことも立派なエコだと思います。末永く安心安全に乗っていただけるよう、ワンヘルスを意識して丁寧な仕事を心がけていきたいです。